

2013年2月14日
東日本旅客鉄道株式会社

グラントウキョウサウスタワーをはじめとするTokyo Station City3棟の ビルの「トップレベル事業所」認定について

このたび、当社が事業主であるグラントウキョウサウスタワーが東京都環境確保条例の「トップレベル事業所」として、東京都から2013年2月12日に認定を受けました。

これはCO2などの温室効果ガスの排出削減に優れたビルとして、エネルギー効率の高い設備の導入や、運営管理面での積極的な取り組みが評価されたものです。

今回の認定により、Tokyo Station Cityにおける3棟のビル(グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、サピアタワー)が、「トップレベル事業所」として認定されました。

JR東日本グループでは、今後も環境や省エネルギーに配慮した建物の開発・運営管理を進めてまいります。

1. 「トップレベル事業所」として認定されているTokyo Station Cityのオフィスビル

- ・ グラントウキョウサウスタワー(2012年度に準トップからレベルアップ)
- ・ グラントウキョウノースタワー(2011年度認定)
- ・ サピアタワー(2010年度認定)

2. 各ビルの特徴

(1)グラントウキョウサウスタワー

- ・ BEMS(ビルディング アンド エナジー マネジメント システム)によるエネルギー使用の詳細な計測と分析を行うとともに、ブラインドを活用して日射を制御するなど、環境負荷の低減及び効率的な運用に努めています。

(2)グラントウキョウノースタワー

- ・ オフィス部分では、東西南面の外壁にエアフローウィンドウを採用し空調負荷を低減するとともに、照明の積極的な制御など効率的な運用に努めています。
- ・ 百貨店部分(地下1階から地上13階で百貨店「大丸」が営業中)では、冷房排熱の回収や氷蓄熱システムの導入などエネルギー利用の効率化を行っています。

(3)サピアタワー

- ・ 開業時より環境や省エネルギーを強く意識した建築計画で、国交省が主導する建築物の環境性能評価システム「CASBEE(新築)」で最高位「Sランク」を認証取得(2009年度)しています。
- ・ 開業後には更なる環境負荷低減のため、事業者・運営者・入居者・設備管理会社が協働して、ハード面での設備投資やソフト面での運用改善を実施することで、大幅にCO2を削減しています。

3. 「優良特定地球温暖化対策事業所」について

(1)認定基準

「設備及び建物性能」や「事業所の運用」等の省エネルギーに寄与する評価項目(228項目)において下記の得点を取得し、トップレベル/準トップレベルの認定基準に適合すること

- ・ 得点80点以上 ⇒ トップレベル事業所
- ・ 得点70点以上 ⇒ 準トップレベル事業所

(2)認定の効果

東京都環境確保条例により、対象事業所の地球温暖化効果ガス削減義務率が軽減されます。

- ・ トップレベル事業所 ⇒ 削減義務率を1/2に軽減
- ・ 準トップレベル事業所 ⇒ 削減義務率を3/4に軽減

4・各ビルの概要

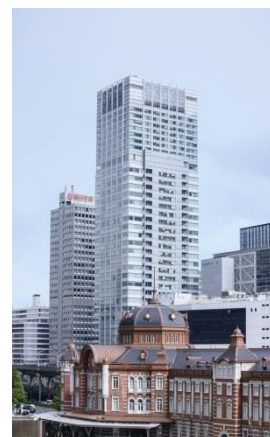
物件	グラントウキョウサウスタワー	グラントウキョウノースタワー	サピアタワー
竣工年月	2007年10月	2007年10月	2007年3月
所在地	千代田区丸の内	千代田区丸の内	千代田区丸の内
階数	地下4階～地上42階	地下4階～地上43階	地下4階～地上35階
延床面積	約140,000㎡	約194,000㎡	約78,000㎡
主用途	オフィス、店舗	オフィス、百貨店	オフィス、店舗、ホテル、 貸会議室
事業主	・東日本旅客鉄道(株) ・鹿島八重洲開発(株) ほか	・東日本旅客鉄道(株) ・三井不動産(株)	・東日本旅客鉄道(株)
運営管理 会社	・(株)ジェイアール東日本ビルディング	・三井不動産ビルマネジメント(株)	・(株)ジェイアール東日本ビルディング ・日本ホテル(株)



グラントウキョウサウスタワー



グラントウキョウノースタワー



サピアタワー

(参考)

・ 今回の認定により、当社における「優良特定地球温暖化対策事業所」は、以下の6箇所であり、内訳は次のとおりとなりました。

○ トップレベル事業所

サピアタワー、グラントウキョウノースタワー、JR品川イーストビル
グラントウキョウサウスタワー(昨年度は準トップ)

○ 準トップレベル事業所

JR東急目黒ビル、東京ビル

本件のプレスリリースは、ときわクラブ、丸の内記者クラブ、JR記者クラブにお届けしております。